

第 3 回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ

山田修一 安全・衛生 WG (総合安全・情報管理技術分野)

山本浩 安全・衛生 WG (環境・建設技術分野)

1. はじめに

平成 26 年 9 月 18 日 (木) に埼玉大学総合技術支援センターの主催で第 3 回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップが開催され、本学技術支援センター安全衛生ワーキンググループから山田、山本の 2 名が参加した。

本ワークショップは、大学等で安全管理業務に携わる技術職員が日常の業務で蓄積した情報の交換や討論を通して技術や知識を高めるとともに、職員間の交流を深めることを目的として、茨城大学・宇都宮大学・群馬大学・埼玉大学の技術職員有志により発足した。平成 24 年 9 月に第 1 回、平成 25 年 9 月には第 2 回ワークショップを開催し、今までに、10 機関が参加している。

今回のメインテーマは「各大学・高専における安全管理活動」であり、3 大学 1 高専から 4 件の技術職員による安全管理活動についての講演と活発なフリーディスカッションが行われた。

2. 参加機関と参加人数

埼玉大学 総合技術支援センター	12 名
群馬大学 理工学系技術部	3 名
宇都宮大学 工学部技術部	5 名
茨城大学 工学部技術部	5 名
群馬高専 教育研究支援センター	1 名
小山高専 教育研究技術支援部	5 名
横浜国立大学安心・安全の科学研究 教育センター	1 名
新潟大学 危機管理本部	
環境安全推進室 特任助手	1 名
長岡技術科学大学 技術支援センター	2 名

3. ワークショップの概要

3 大学 1 高専から 4 件の講演があった。各講演について質疑応答が行われ、すべての講演の後、さらに内容に踏み込んだディスカッションが行われた。最後にテーマにこだわらず各大学・高専における安全管理業務に関するフリーディスカッションが行われた。

講演の要約を以下に記す。

「安全管理プロジェクト活動報告」

埼玉大学総合技術支援センター

佐藤亜矢子氏

埼玉大学では研修活動としてリスクアセスメントやヒヤリハット事例の収集に取り組んできた。この研修活動を発展させ、学内の安全管理活動を支援することを目的に 2012 年安全管理プロジェクトを発足した。

このプロジェクトの中から以下の活動内容について紹介があった。

- ・ヒヤリハット事例の収集と公開
- ・化学物質の安全管理かわら版
- ・毒劇物の薬品管理システムへの一括登録
(薬品管理システムのチェック・管理体制整備)

「横浜国立大学の安全工学教育と

労働安全衛生管理」

横浜国立大学 安心・安全の

科学研究教育センター 鈴木雄二氏

安全工学教育に関する取り組みについて、安全工学教育プログラム(工学部の講義科目)の提案やリスクマトリックスでの評価などについて説明があった。また、安全衛生巡視の状況、専任衛生管理者の活動内容などの紹介があった。

「小山高専における安全衛生教育について」

小山高専 教育研究技術支援部

生井智展氏

技術室及び安全衛生に関する組織と活動について紹介があった。また、教育活動の実事例として KYT(危険予知訓練)、ヒヤリハット事例報告書、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)活動、特別教育(低圧電気)の学内実施について説明があった。特別教育(低圧電気)の学内実施については、昨年、本学菅田氏が行った講演(技術職員による低圧電気取扱特別教育について)を参考に今年度中に開催する計画とのこと。

「工作機械使用のための安全教育」

宇都宮大学 工学部機械工場係長

神山祐之氏

マニファクチャリング・テクノロジー・ラボラトリー(機械実習工場)の紹介と主な業務の説明があった。また、工作機械(旋盤・フライス盤・ボール盤)を使用するためのライセンス取得講習会やその他安全対策の紹介があった。



図 1 フリーディスカッションの様子

フリーディスカッションではヒヤリハットの収集方法について紹介があった。

- ・教員に直接声をかけ情報収集している。日常の雑談などから集めることも多い。(埼玉大学)
- ・学生に対して直接問いかけを行い提出してもらうようにしている。技術職員自身のヒヤリハットも正直に貼り出している。(小山高専)
- ・フォーマットはあるがなかなか集まらないため、学部の学生実験の安全教育の時にフォーマ

ットを配布し、提出してもらっている。ヒヤリハットを提出することがペナルティではないという意識付けをしていきたい。(新潟大学)

公式には収集していないが、教員が演習の中でレポート形式にて個別に収集している事例がある。(横浜国大)

その他、技術職員による学生向け技術安全講習会の実施例、一般化学などの実験でDVDを作成し安全教育を実施している例、技術職員による作業環境測定の実施例、ガスボンベの管理状況などが紹介され活発な意見交換が行われた。

4. ワークショップに参加して

ワークショップに参加して感じたことは、参加した大学・高専の横のつながりが強くなってきていることである。このワークショップも3回目を迎え、安全衛生担当者同士が顔見知りになり、普段から連絡を取り合い業務に生かしていると感じられた。例えば茨城大が技術職員で作業環境測定を行う際、既に実施している群馬大から指導を仰いだなどの事例が挙げられる。

今後もこのワークショップに参加し、他大学の安全管理活動についての多くの情報を持ち帰り、業務に生かすことは大学の安全管理にとって大変有意義なことである。今回参加して得られた知見を今後の安全管理活動に生かしていきたい。

来年度のワークショップについては、テーマ・開催場所は未定であるが、開催することが確認されて閉会となった。